

【熊本県納税貯蓄組合連合会会長賞】

九年間の学校生活と税

高森町立高森中学校

三年 志賀 心美

私は、これまでの学校生活九年間で税金がどう関わってきたのかを考えた。

まずは、教科書である。教科書が税金でまかなわれているということは母から聞いて知った。母が

「教科書の裏に『この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によつて無償で支給されています。大切に使いましょう。』と書かれているよ。」

と教えてくれた。また、学校から配られる人権便りにも『教科書無償の闘い』について書かれていた。教科書無償配布は、差別をなくす取り組みの第一歩にもなったと思う。子ども一人一人を大切にするための税金なんだと思った。

私の家は、三年前から兄が高校生になり、毎年教科書を買っており、その金額に驚いた。無償の教科書はとても有難いと思う。感謝の気持ちをもって大切に教科書を使いたいと思った。

次に、タブレットである。高森町では、小学生から中学生まで一人一台のタブレットを使うことができる。低学年の頃から使っているので当たり前だと思っていたが、これも税金のおかげであると改めて思った。町の予算の多くを子どもたちのために使ってくれる町に感謝したい。

もし、一人一台のタブレットを個人で準備しなくてはならなかったら、かなりの家庭の負担になったことだろう。タブレットのおかげでコロナ感染が拡大した時も家に持ち帰りオンラインで授業を受けることができた。

最後に、「ふるさと納税」について、私たちは、かなりの恩恵を受けていると感じている。私は、陸上部に所属しているが、冬に着用するベンチコートや大型タイマーなど「ふるさと納税」で購入することができたと聞いている。さらに、高森町独自の給付金の財源もふるさと納税であると聞いた。給付金で購入したエアコンのおかげで、この夏私は、快適に受験勉強を行うことができています。

考えてみると、私の九年間の学校生活が税金によって支えられていることに気づかされた。私の両親は、公務員である。つまり、給料も税金でまかなわれていることを考えると、私が生まれ今日に至るまで税金によって支えられていることになる。税金に本当に感謝である。だからこそ、私がこの先、夢を叶え、大人になった時、次の子どもたちを支える納税者になりたいと強く思った。